



# CAJLE Newsletter

Number. 55  
December 2017

カナダ日本語教育振興会

Canadian Association for Japanese Language Education

## 目次

会長の言葉	1
<a href="#">CAJLE2017 年次大会を振り返って</a> … 2	2
<a href="#">年次大会に参加して</a> … 3	3
<a href="#">特集記事「カナダ日本語教師に聞きました。あなたの強みは？」</a> … 6	6
<a href="#">CAJLE2018 年次大会のご案内</a> … 7	7
<a href="#">ANNUAL CONFERENCE</a>	
<a href="#">活動報告</a> … 9	9
◆日本語教師情報交換会	
◆地域研修会	
<a href="#">学校紹介</a> … 11	11
◆ロンドン森のまち日本語学校	
◆ブリティッシュコロンビア大学オカナガンキャンパス	
<a href="#">リレー随筆「違う」の形容詞化</a> … 12	12
<a href="#">国際交流基金コーナー</a> … 14	14
◆活動紹介	
◆教材紹介「まるごと 日本のことばと文化」	
<a href="#">教材紹介</a> … 15	15
◆「おひさま」	
<a href="#">CAJLE よりお知らせ</a> … 16	16
<a href="#">2017 年上半期活動報告</a> … 17	17
<a href="#">編集後記</a> … 18	18
<a href="#">会員規定</a> … 19	19
<a href="#">CAJLE 2018 研究発表募集</a> … 20	20
<a href="#">CALL FOR PROPOSALS</a>	
<a href="#">APPEL DE PROPOSITIONS</a>	

Editors: Sawako Akai (Chief), Ihhwa Kim, Izumi Krasznai

Copyright©CAJLE 2017

## 会長の言葉

CAJLE 会長 小室リー郁子

朝夕にすでに秋の風が感じられたカルガリーで、8月に皆さまにお目にかかってから、はや3か月余りがたちました。皆さまにおかれましては、いかがお過ごしでしょうか。今年も、年次大会には国内外から数多くの方々にご参加いただきました。ありがとうございました。

今夏の年次大会では、「規範意識」や「多様性」という語をキーワードに、普段、自分自身が日本語と学習者に対してどのような意識で臨んでいるかということ、様々な角度から考えさせられる機会を得ました。何が正しいかという概念は、実は非常に主観的なものだという久保田竜子氏の言葉は重く、自分自身の価値観や評価基準に固執するあまり、実は、幅のある日本語を枠にはめてしまっているのではないかと反省させられました。また、Janice Aubry氏の研修では、冒頭で投げられた“What is your goal when you teach Japanese? What is your overarching purpose?”という問いに対し、自らの答えが、決して学習者の多様な学習目的や学習意欲に応えているものでないことを気付かされ、多様性に配慮した教育の難しさを改めて感じました。もう一方の教師研修では、安易に媒介語に逃げてしまうことがもたらす弊害について、田中香織氏が多くの事例を用いてお話くださり、特に日常的で平易だと思われる語彙の中に多くの落とし穴が潜んでいることを実感しました。

CAJLEの年次大会は、学術的な刺激を受けられる場であるだけでなく、カナダの教師や学生、研究者にとっては、同じ国の中でも普段会うことのできない同志に会い、悩みや苦労を共有し、それを乗り越え、前に進むための場であると思っています。また、カナダ国外からいらしてくださるの方々にとっては、カナダという文脈の中で新たな発見や出会いがあり、それまで当然であった「何か」が揺さぶられる場となればと思います。

CAJLEは来年創設30周年を迎えようとしています。この10年、CAJLEはグローバルネットワークのメンバーとして世界各地の学会・教師会と協働する体制を整え、国内においてはCASLTとの関係を築いてまいりました。近年は、さくらネットワークのメンバーとしてカナダ国内の活動をさらに広げ、全カナダ日本語弁論大会や地域活動の促進にも力を入れています。今後も会員の皆さまの声に耳を傾けながら、これからのCAJLEが向かう先を模索していきたいと思えます。来年8月には二年に一度の理事改選がございます。CAJLEの運営に直接関わっていきたくと思われる方は、ぜひ理事に立候補ください。

本年も大変お世話になりました。どうか皆さま、よいお年をお迎えください。

## CAJLE 2017 年次大会を振り返って

### 大会実行委員長 シャープ昭子

CAJLE2017 年次大会は、2017 年 8 月 16・17 日にアルバータ州カルガリー市のカルガリー大学において「広がる日本語-日本語教育と社会とのつながり」をテーマに開催されました。本大会では、カナダを始め、アメリカ、日本、台湾、香港、メキシコから 87 名の日本語教育関係者が集まり、意見交換、情報の共有を行いました。大会の前日にはカルガリー大学日本語プログラム主催の情報交換会が開催され、大会の日程を利用してカナダ各地の教員と日々のクラスに直接関する情報を交換する貴重な場が提供されました。

多様な学習目的や学習方法及び学習者の背景や日本語そのものが持つ多様性を理解し、どのように日々の教育実践に取り入れ、反映させるのかを考える必要性がますます高まっています。本大会では、久保田竜子先生（ブリティッシュコロンビア大学）に「規範主義を超えた日本語教育の構築へ：多様性とそのポリティクスを考える」と題し、多様性に注目した応用言語学的概念（リングフランカとしての日本語、トランスランゲージング、メトロリンガリズム、越境コミュニケーションなど）、言語教育における規範主義、多様性という概念自体のポリティクスについて基調講演をしていただきました。さらに、規範主義を超えた日本語教育の構築へ向けての可能性と課題についてもお話していただきました。また、教師研修では、「多様性を織りこむ日本語指導：実践と課題」という内容で、リングフランカとしての日本語、トランスランゲージング、メトロリンガリズム、越境コミュニケーションなどの多様性概念をどのように日本語指導に織りこむことができるのかを参加者と共に模索する機会を提供していただきました。そして、田中香織先生（国際交流基金トロント日本文化センター）には「媒介語の使用を対照の楽しみに繋げる」と題して、研修会をしていただき、多様なことばの使われ方を対照的に考える楽しさを学習者と共有することについて、参加者と共に考える機会をいただきました。さらに、カナダ第二言語教師会からは、副会長のジャニス・オーブリー先生にお願いいただき、「日本語教師のための教室内の言語の多様性をサポートするストラテジー」という題で多様性をいかにして教室で生かしていくかについて、アルバータ州日本語及び日本文化カリキュラムからの例と、他州での事例も取り入れながら、考察実用的な教室活動の例とストラテジーをご紹介いただきました。

本大会では新たな試みとして、大学院生の年次大会参加促進を目的に、高円宮日本教育・研究センターからの助成を基に、優秀発表賞を授与しました。この新しい試みのためにこれまでにない多くの大学院生の応募があり、本年度は 9 名の大学院生の参加がありました。また、夏季休業中のキャンパスでは食事ができるところが限られていたため、カルガリー大学の日本語プログラムの協力で 1 日目には夕食会を催しました。この食事会には、予想を超える多くの参加者があり、60 人余りが出席して盛大な食事会になりました。食事の後には、ホテルのラウンジなどで、さらなる交流ができたとのコメントを、直接、多くの参加者から頂きました。

懇親会は、在カルガリー総領事館のご支援と田辺総領事のご厚意で、大会終了後に在カルガリー総領事館公邸で催されました。総領事公邸では立食スタイルのレセプションによるおもてなしをして頂き、新たな交流の機会を持つことができました。

本大会では、大会 2 日間で 42 本の口頭発表と 13 本のポスター発表がありました。大会の講演資料と本大会のプロシーディング（<http://www.cajle.info/conference-proceedings>）は、CAJLE ホームページで公開されていますのでご覧ください。また大会の講演資料が会員ページで公開されていますのでぜひご利用ください（来年 2 月までの期間限定）。

最後に、本大会開催にあたり国際交流基金をはじめ多くの団体、企業の皆様にご支援・ご協力をいただきました。地元カルガリー大学からは、大学関係者のほか、日本語を学ぶ 10 名の学部学生たちに、多くの協力を得ました。皆様のご協力に、心より感謝を申し上げます。

## CAJLE 2017 年次大会に参加して

KANZA TARIQ (UNIVERSITY OF ALBERTA)

The 2017 CAJLE conference was held on the 16th and 17th of August at the University of Calgary in Calgary. The conference was titled “Diversifying Japanese: Connections between language education and society” and the many presentations, workshops, posters and speeches held highlighted different facets of diversity relevant to Japanese educators and researchers. This topic gave us a view of the growing diversity within countries around the world due to the rapid movement of people, the immediate availability of information and increasing diffusion of culture. Many presentations centred on the diversity within classrooms, an important focus in the Canadian context, where students often come from vastly different backgrounds and thus approach learning from very different perspectives. The conference also highlighted the diversity within the language we, as scholars and educators of Japanese, study and teach. The differences in how the topic was addressed by participants also called attention to the diversity between the approaches we use as part of our research or our strategies when teaching. It was very poignant to see all this variety of scholarship brought together within the bounds of this conference in an attempt to reach a better understanding of a dynamic and further diversifying world.

There are some aspects of this conference that I particularly appreciated and thus would like to mention. I found that the Graduate Student Abstract Award provided a good learning opportunity and a great incentive. I also thought it was a wonderful gesture to add the winning abstracts into the conference booklet. This way attendees were able to understand the high quality of work the students had submitted and how it was truly worthy of being given recognition.

The poster presentations were laid out and scheduled well and so participants were able to make effective use of the displays. This method of presentation gave researchers the opportunity to discuss their work in a more informal environment and also permitted people with similar areas of scholarly interest to network and socialise. There was also more time available for explaining and enquiring than would be during an oral presentation.

One of the most memorable events of the conference was the culmination, where participants boarded school buses and were transported to the residence of the Consulate-General for a reception and dinner. I found it particularly exciting because of the fieldtrip like quality of the outing, the nostalgia possibly having been coaxed out by the mode of transport. Both the dinner and the company made it a wonderful evening. I'd like to thank the Consulate-General for his generosity in opening up his home to us. It was a comfortable setting for attendees to socialise in, outside the bounds of the halls of academia. It also showed the commitment and support of the Japanese government to teachers and researchers of the Japanese language abroad.

As a first-time-conference-attendee I could not have asked for better initiation. I'd like to thank CAJLE for the acceptance of my meagre paper, for generous hospitality of the organisers, for the opportunity to meet and converse with wonderful people and brilliant scholars. This conference gave me the feeling of being part of a community that is working towards a common understanding. I'm looking forward to future conferences.

## 学びが多く温かい大会、ありがとうございました！

孫雪嬌(早稲田大学大学院日本語教育研究科 博士課程)

今回初めて CAJLE の年次大会に参加させていただきました。初めて一人で西半球まで行き発表することにはささか不安がありましたが、大変学びが多く、そして主催側の行き届いた対応に心温まる二日間となりました。

まず、学びの面においては、基調講演、教師研修、それから口頭/ポスター発表はどのセッションも非常に充実した内容で、新しい知との出会いの連続でした。そもそも今回の大会に参加したいと思ったきっかけは、久保田竜子先生のお話がうかがえるからでした。私は日本国内の非母語話者日本語教師という自身の経験から出発し、言語教育における母語話者性の研究に取り組んできました。そのため、自分にとって大会は久保田先生に直接お話をうかがえる貴重な機会です。実際に講演の後に質問をさせていただき、また、セッションの間にも何度か先生とお話ができ、自分のテーマに関連する文献まで教えていただきました。さらに、一つのテーマをめぐり基調講演と教師研修がセットとなる二部構成によって、理論と実践のつながりを考えることができ、とても勉強になりました。と同時に、「規範に縛られず多様な日本語教育を展開する」理念を実践で具現化することの難しさも再認識させられました。

もちろん、口頭発表とポスター発表も興味のあるものが多く、どのセッションに行くか頭を悩ませるぐらいでした。その中でカナダをはじめとする海外の現場の特徴から出発された研究が多く、自分のもっている「日本国内の現場の『あたりまえ』」が大きく揺さぶられました。

充実した学びを得たほかに一番印象に残ったのは、運営なさる方々の温かさです。宿泊施設の紹介や会場でのwifiの接続方法、休憩時間の軽食まで、何から何まで手配してくださいました。行き届いた心配りのおかげで、忙しい日程の中でも、宿泊や食事などに対する心配がなく、学びを吸収することに集中できました。また、総領事公邸で行われたレセプションにご招待いただいたことも貴重な体験でした。

カルガリーの爽やかな晩夏、広々として自然豊かな大学のキャンパス、慣れない英語を使う私に道を教えてくださった親切な現地の方々、すべていい思い出になりました。素晴らしい大会を主催してくださった実行委員会の皆様に心より感謝申し上げます。大変お世話になりました！機会があれば、またぜひ参加させていただきたいと思います。



大会集合写真



本年度の年次大会から大学院生のアブストラクトを対象に、アブストラクト賞(最優秀賞、優秀賞)を設けました。最優秀賞受賞者の声をご紹介します。—編集部

## 年次大会最優秀アブストラクト賞受賞者の声

西岡裕美 (マッコリー大学 博士課程)

CAJLE 年次大会で発表をさせていただくのは、2012年に続き今年で2回目となりますが、今回は5年ぶりに訪れたカナダで、最優秀アブストラクト賞をいただくことができ、特に感慨深い学会発表となりました。また、2015年に博士課程を始めてから、約2年半悪戦苦闘しながら続けてきた研究成果をこうしてみなさまと共有する機会をいただいたことにも大変感謝しております。

今回のCAJLE年次大会では、学習者、言葉の多様性に対応した日本語教育について考える、がテーマになっていましたが、アジアで働く駐在員に求められるコミュニケーション能力、学習動機がないまま日本語の勉強をしている学生、教室に來ないでオンラインで勉強する学習者についてなど大変興味深い発表が多くありました。またこのように言語の使われ方、学習者が多様化する中で、私たち日本語教師はどのような貢献をしていけばいいのか、考えさせられる学会となりました。

博士課程も残り6ヶ月を切りましたが、CAJLE年次大会での楽しい思い出、皆様からの温かいフィードバックを励みに、何とか博士論文を完成させて、またいつの日かみなさまと共有できたら、と願っています。ありがとうございました。

### CAJLE カルガリー大会 PROCEEDINGS のウェブ掲載について

大会 Proceedings をウェブに掲載いたしました。今回の論文数は37本です。  
Proceedings は以下からご覧いただけます。

Home (<http://www.cajle.info/>) → Publications をクリック → Conference Proceedings をクリック

## 特集記事 カナダ日本語教師に聞きました。

### あなたの強みは？

学習者の多様性について大きく取り上げられている昨今ですが、教師の多様性についてはどうでしょうか。今回の特集では、カナダで日本語を教えている編集部周辺の先生方に、出身地や専門研究分野、職歴などについて伺いました。匿名アンケートを実施して約 30 名より回答をよせていただきました。ご協力くださった方々、ありがとうございました。ー編集部

#### アンケートに答えてくださった方々のプロフィール

大多数の回答者は日本出身で、第一言語は日本語でした。専門分野は複数回答で日本語教育が 73%と一番多く、次に言語学 37%、日本語以外の言語教育が 23%と続き、言語関係を専門とする方が多数でした。その他、歴史、科学、文学、宗教、教育学などの回答が少数ありました。職歴は、日本語以外の教科の教員、事務員、シェフ、販売員、企業秘書、翻訳、写真家、SE、英語指導助手、臨床検査技師など多岐にわたりました。

#### 日本語教師としてのあなたの強みは？

**【専門分野が言語関係】** 言語習得の研究や他の言語を教えた経験は授業の目的がはっきりし、教授法、教室活動の構成に役に立ちます。また、言語学の研究や翻訳の経験は言語間の微妙な違いや翻訳の限界を指摘するのにも役に立っています。自分も学習者であったという教員は、学生が直面する問題が理解しやすいです。

**【専門分野が日本関係】** 言語だけではなく、日本学や歴史研究のバックグラウンドは文化背景や歴史背景を提供できます。

**【その他教育・育児経験】** JET プログラムに参加して日本で英語を教えた経験がある人、言語以外の教育経験者や子育ての経験者は学習者の興味があるものを取り入れ、楽しい授業のネタの蓄積があります。また、いわゆる「不良学校」で教えた教育経験はどんな学生にも対応できる自信に繋がります。

**【社会人経験】** 企業で働き、事務のスキルがあると成績処理などの事務処理に役立ちます。また、敬語をはじめとする職種・階級別に存在する話し方やロールプレイの場面や状況設定のヒントが豊富です。就職活動や日本社会の文化や考え方の知識にとどまらない個人の「経験」は学習者も興味を持って聞いてくれるので、学生との距離が縮まるといった回答が多数寄せられました。そして、社会経験からいろいろな学習者の個性を認め、柔軟性のある教師でいられます。

#### まとめ

CAJLE の年次大会でも学習者の多様性や多様な学習方法があることが強調されてきました。一方、この小さな調査からもカナダの日本語教師には多様な背景があることが伺えます。教師は授業の準備からクラス運営まで孤独な作業に追われることが多いですが、自分の専門知識、日本語を学習した経験や日本での経験を、学習者だけではなく教員間でも共有する時間をとることはできないでしょうか。日本で経験したことの全てが役に立っているとの回答もありました。この調査から、教科書の中にとどまらず、家庭・学校・社会のいろいろな場面で使う日本語を教える私たちはお互いリソースとして協働して行くべきだと考えました。

## CAJLE2018 年次大会のご案内

大会実行委員長 赤井佐和子

2018年度の年次大会は、オンタリオ州ロンドンで開催することになりました。森の街という愛称を持つロンドンで、みなさまと実り多き時間を共有したいと思っています。世界各地から多くのみなさまのご参加をお待ちしております。

テーマ：「多様性と評価ー多様化する社会での評価の意義ー」

日程： 2018年8月21日（火）・22日（水）

開催地： オンタリオ州ロンドン ヒューロン大学 (<http://www.huronuc.on.ca>)

基調講演・教師研修Ⅰ：真嶋潤子先生（大阪大学）

教師研修Ⅱ：Maureen Smith先生（カナダ第二言語教師会）

教師研修Ⅲ：村上吉文先生（国際交流基金派遣日本語上級専門家、アルバータ州教育省日本語教育アドバイザー）

2017年度大会の「日本語教育において広がる多様性」についての議論に続き、CAJLE2018では、そのような多様性をどのように「診」きわめ、評価するかということに焦点をあて、参加者のみなさまと考えていければと思っています。

社会や教育、教授法、学生の背景などさまざまな面で多様性の存在が認識、あるいは意識されるようになってきました。それを受け、評価や評価方法の多様化も進んでいます。言語学習の場で多様性を受け入れるとすれば、評価の意義はどのようなところに求められるのでしょうか。学習の場と社会が繋がっているにもかかわらず、教室での評価と社会での評価が必ずしも一致せず、指導者あるいは学習者として戸惑うといった経験をお持ちの方も少なくないのではないのでしょうか。これまでの評価研究や実践の歩みを振り返り、そのような矛盾や不一致を認識・理解し、学習の場と社会、多様性と評価をつなげていく一歩となればと考えております。

本大会では、基調講演・教師研修Ⅰには、学習者の個人差、言語政策など社会との繋がりの面から言語教育や評価について研究・実践を行われている真嶋潤子先生をお迎えします。また、教師研修ⅡではMaureen Smith先生にカナダにおいての多様性と評価について、教師研修Ⅲでは村上吉文先生に「宝箱システムー自律学習におけるデジタルバッジの導入」についてお話いただく予定です。参加者のみなさまと、社会と言語教育との繋がりとという視点から日々の実践を振り返るとともに、新しい「知」を生み出し、今後の実践に反映していけるような励みになる会にしたいと思っています。

来年の8月にロンドンにてみなさまのお越しを楽しみにお待ちしております。



## CAJLE2018 ANNUAL CONFERENCE

### SAWAKO AKAI, ORGANIZING COMMITTEE FOR THE CAJLE 2018

The 2018 CAJLE Conference will be held in London, Ontario. We look forward to welcoming participants from around the world to share a fruitful time in the Forest City which is the nickname of London, Ontario.

**Theme:** “Diversity and assessment: Exploring the significance of assessment in a diversifying society”

**Date:** August 21 (Tuesday) and 22 (Wednesday), 2018

**Venue:** Huron University College, London, Ontario (<http://www.huronuc.on.ca>)

**Keynote Address & Teacher Workshop I:** Professor Junko Majima (Osaka University)

**Teacher Workshop II:** Ms. Maureen Smith (Canadian Association of Second Language Teachers)

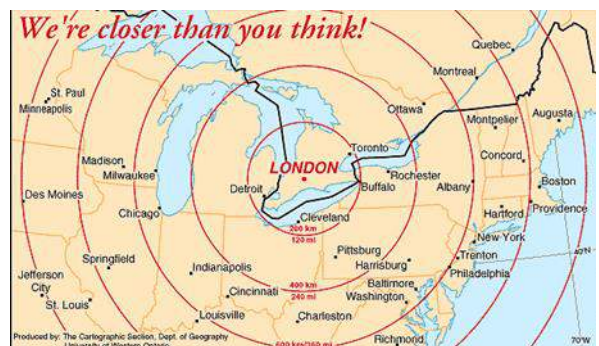
**Teacher Workshop III:** Mr. Yoshifumi Murakami, Japanese-Language Education Advisor, Alberta Education  
(sponsored by the Japan Foundation)

At the 2018 CAJLE conference, we would like to continue the discussion from 2017 conference “Diversifying Japanese: Connections between language education and society” focusing on how we can assess and evaluate diversity.

The presence of diversity in various situations such as society, education, pedagogy, and students’ background, has been recognized or made aware. Because of that, the diversification in assessment and evaluation methods has made some progress. Given that diversity is accepted in language learning, what is the significance of the assessment? Teachers or students may have experienced confusion because evaluation in a classroom and in society were not matched despite the connection between learning and society. By reflecting back on past research on assessment and practices, we hope that this conference will provide the opportunity to recognize and understand such contradiction and discordance, which will help to connect learning with society, as well as diversity with assessment.

The keynote address will be given by Professor Junko Majima, who has been actively engaged in language teaching and assessment about a perspective from social connection such as learners’ individual differences and language policy. She will also conduct a teacher training workshop. Ms. Maureen Smith from the Canadian Association of Second Language Teachers will be invited to talk about similar cases in Canada. Also, Mr. Yoshifumi Murakami will run a teacher training workshop about the “treasure chest system: the introduction of digital badges in autonomous learning.” In this year’s conference, we will provide a platform to reflect upon and exchange opinions and ideas about the connection between language education and society with all participants.

We look forward to welcoming you next August in London, Ontario.



22 ページに「研究発表募集」(日本語)のご案内があります。こちらをあわせてご覧ください。  
Please see page 24 for “Call For Proposals” and page 26 for “Appel de propositions.”



前号でご紹介した「継続シリーズ」がトロントで引き続き開催されました。今号でも継続してご案内します。— 編集部

## 活動報告

### 日本語教師情報交換会 第23・24回 日本語学習を継続させる

小室リー郁子(トロント大学) 松本朋子(トロント日本語学校・JCCC)

国際交流基金トロント日本文化センターとの共催事業である「日本語教師情報交換会：日本語学習を継続させる」シリーズは、今年度上半期、夏から秋にかけて2回実施いたしました。

上半期第一弾は7月22日(土)に「日本語教育とジェンダー」と題し、トロント大学で教鞭を執っておられる有森丈太郎先生をお招きし、多様な背景や価値観を持つ学習者が増える中、現場の教師はどのような対応が求められているのだろうかということについて、まず、有森先生から基本的な概念や用語、また現在社会や教育現場で起こっている状況などをお話いただいたあと、皆



トロント大学 有森先生

で意見交換をする場を持ちました。各自持参のランチをはさんでの4時間半のプログラムでしたが、その長さを感じさせない充実した内容と活発なディスカッションが繰り返されました。これだという答えのないトピックに対し、ケーススタディ的なアプローチで自分ならどうするか、どうしたいと思うかなど、熱い意見が交わされました。当日は bits 誌による取材も行われました。



第二弾は10月14日(土)に、日本語教育機関による学校紹介を企画いたしました。今回は、オンタリオ州ロンドン地域で日本語教育に携わっておられる先生方が5名来てくださり、参加者はロンドン地域での日本語教育の現状について広く深く知る機会を得ました。学齢期以前また学齢期のお子さんを対象とされている森のまち日本語学校については、白川理恵先生が学校全体のことに加え、ご自身が担当されているJFLクラスについて具体的なお話をしてくださいました。次に、マザーテレサ高校からは、日本文化の理解と体験学習に関連した試みをされている谷本諭先生が、現在日本とカナダの若者に求められていることについて、ご自身の体験に基づいたお考えを熱く語ってくださいました。休憩をはさみ、後半はウェスタンオンタリオ大学の福井視先生とヒューロン大学の河井道也先生、赤井佐和子先生、白川理恵先生が、素晴らしいチームプレーで、各大学・プログラムの特色、担当されているコースでの試みなどについて、実際の教室活動や学習者の成果物を、スライドや写真、ビデオを使って生き生きとお話してくださいました。終了後のアンケートでは、ロンドン地域の先生方が互いに連携し、協力しながら日本語教育や日本文化理解のための活動に従事しておられることを知り、非常によい刺激を受けたといったコメントが多く寄せられました。



森のまち日本語学校 白川先生



マザーテレサ高校 谷本先生



ウェスタンオンタリオ大学  
福井先生



ヒューロン大学  
河井先生・赤井先生

今回ご発表いただいた、森のまち日本語学校、ウェスタンオンタリオ大学、ヒューロン大学の機関全体のプログラムの内容は、CAJLE ホームページ (<http://www.cajle.info/resources/j-gap/japanese-programs-in-ontario-2/>)にてご覧になれます。

次回の「継続」は2018年明けを予定しております。みなさま、来年も「継続」をどうかよろしく願います。

(写真はすべて国際交流基金トロント日本文化センターからの提供によります。)

## 地域研修会報告：マニトバ州日本語教師研修会

JEFF NEWMARK (UNIVERSITY OF WINNIPEG)

Seven Japanese language instructors from post-secondary institutions around Manitoba convened at the University of Winnipeg on April 29<sup>th</sup>, 2017 to attend a workshop pertaining to the integration of new technology in the classroom. The workshop was led by Saitō Mami, Japanese-Language Education Advisor-Alberta Education, and was co-sponsored by the Japan Foundation and the University of Winnipeg's Program on East Asian Languages and Cultures.

Compared to provinces like British Columbia and Ontario, the number of native Japanese speakers in Manitoba is quite low, yet every year the number of Japanese language students has been increasing. Most of these pupils are not heritage students; rather, they come from diverse backgrounds and bring with them different interests in studying Japanese. In turn, the instructors strive to create a curriculum that speaks to these interests and advances Japanese language pedagogy.



The workshop presented an opportunity for instructors to exchange ideas and experiences they have used thus far and for them to learn new modes of online and technological instruction. Saitō-sensei's morning session focused on the theme, "Fostering Contact Between Students and the Japanese Language in Manitoba." She stressed the importance of developing an enjoyable course while also promoting succession into the intermediate and advanced levels of the language. Further, she addressed the value of incorporating new technology in the classroom--in other words following the early twenty-first century paradigm shift into globalized education. The afternoon session was an interactive presentation on "Adapting Internet Resources for Use in the Classroom" with workshop participants testing new online resources and assessment tools.

## —学校紹介—

今回の「学校紹介」は、来年度年次大会が開かれるオンタリオ州よりロンドン森のまち日本語学校、そしてブリティッシュコロンビア州よりブリティッシュコロンビア大学オカナガンキャンパスをご紹介します。 — 編集部

### ON 州ロンドン森のまち日本語学校

校長 小藤智三郎

森のまち日本語学校は、2008年の9月に創立されました。「子供たちに日本語教育の場所を」と保護者の有志が集まり、スタートさせたとても小さな学校です。

国籍や出生地を問わず、「日本語を学びたい」、「日本の文化に触れたい」子供たち（JKからG8）を受け入れています。2016年12月から London District Catholic School Board の補助を受けられるようになり、教員給与の負担軽減とともに、教室や体育館などの施設が充実しました。授業は毎週土曜日の午前9時から12時までの3時間。家庭で日本語を話す生徒を対象にした幼稚部、小学部1組（1～3年生）、小学部2組（4～6年）のほか、2017年9月からは、家庭で日本語を話さない生徒を対象にした JFL クラスも開講しました。また、ロンドンにある Western 大学や Huron 大学、King's 大学に通う留学生や、日本語を履修している現地の大学生がボランティアとして生徒のサポートをしています。こういった若いボランティアの力も、私たちの学校の大きな支えとなっています。



通常授業に加えて、お正月会や節分行事、運動会といった日本の伝統的な行事に沿ったイベントを取り込むと共に、ピクニックやボーリング大会などの野外活動を催し、先生や子供たち、保護者やボランティアの親交を深める機会を設けています。

また、0～3歳の子供たちが通うプリスクールもあります。こちらは保護者が中心となって運営しており、日本の歌や絵本の読み聞かせ、日本の行事にちなんだクラフトをしています。さながら日本の子育てサークルのような存在です。

たださえ日本人の少ないロンドンでの子育て。互いに悩みを相談し合うなど、小さい子供を育てる親たちにとって欠かせない、大事な場になりつつあります。

私たちは、まだまだ歩みはじめたばかりの小さな学校です。保護者の力添えがなくては何事も始まりません。毎週、保護者が週替わりで「保護者ボランティア」として参加し、印刷などの雑務を担当します。その他にも、図書係やイベント係、ボランティア統括係があり、積極的に学校行事に参加してもらっています。

学校の運営や授業のカリキュラムについても、保護者会やアンケートを実施し、必要に応じて見直ししながら進めています。「日本」で繋がる仲間たちと、勉強や行事、遊びを通して日本語を楽しく学び、これからも「日本を感じられる場所」を与え続けていきたいです。





UNIVERSITY OF BRITISH COLUMBIA OKANAGAN CAMPUS  
JAPANESE LANGUAGE AND CULTURE COURSES  
NINA LANGTON, ASSOCIATE PROFESSOR

Japanese language education began at the Okanagan campus in 1993 with one section taught at night by a part-time instructor. Since that time, we have grown to two full time instructors teaching a total of 10 sections each year in Japanese Studies. We generally offer six to seven sections of language instruction, and two of our language courses are currently offered in a hybrid format, allowing students to work somewhat independently at their own pace, while still checking in at least once a week for face-to-face sessions. This year, we have almost 100 students enrolled in JPST 100, the first semester course, so we are very optimistic about the long-term sustainability of our course offerings. The student population in Japanese Studies is very diverse, with approximately 40% made up of international students. As we don't have a formal programme in Japanese Studies at UBCO, our courses are taken strictly as electives. We have a broad range of majors represented, but a large percentage of our students come from the sciences and management.

We also offer a suite of culture courses taught in English on a rotating basis, including modern literature, pop culture, and film. Occasionally, special topics courses are offered, the most recent being a class on food culture, which was taught in Japan during the summer semester. Extra-curricular events have, over the years, included a Japanese cultural fair, taiko drumming concerts, film nights, guest artists, special lectures on Japanese history and politics, Japanese cooking demonstrations, digital game parties and fundraising initiatives.

UBC Okanagan is currently undertaking a redesign of the Bachelor of Arts degree, and as part of that process, exploring different options for a language requirement. (Currently, students taking Japanese in order to satisfy the language requirement must complete JPST 201, the fourth semester course.) The redesign process presents both challenges and opportunities for Japanese Studies. We do not anticipate a reduction in students taking our first-year courses, but we will need to remain open to tweaking existing courses to enhance student engagement, as well as creating new and innovative courses to attract even more students. We are also committed to increased connections with and recruiting in the local high schools, increased interdisciplinary connections within the university, and ongoing professional development.

---

## — リレー随筆 — 「違う」の形容詞化

渡辺文生(山形大学)

前回の天野みどり先生からバトンを受けました。天野先生は、多様性・社会的ヴァリエーションの観点、あるいは、言語変化の観点から日本語の「間違い」を考える大切さについてお書きになっていました。今回は、言語変化との関連で動詞「違う」の形容詞化について取り上げてみます。

動詞「違う」の形容詞化とは、「違っていた」の意味で「ちがった」という言い方が使われるというような現象を指します。井上史雄先生の『日本語ウォッチング』（岩波新書 1998 年刊）によると、このような現象は福島県あたりで数十年前に発生して北関東を経て東京に入ってきたと考えられるとのこと。そして、形容詞終止形にあたる「ちげー」という言い方が 1994 年の東京下町の調査結果に現れたことなどをもとに「現代形容詞としては完成の域」に達したと考え、「ちげー」の使用が全国レベルに拡大することを示唆されています。

私は、『日本語ウォッチング』を発刊当時に拝読したとき、「ちげー」という言い方には強い違和感を持ち、本当に全国レベルに拡大するのだろうかと思いました。しかし結果は、井上先生の予測の通り「ちげー」の使用



は拡大しているようです。インターネット上の質問サイトなどでの「ちげー」を扱った記事は、2006 年あたりから見つかります。おそらく 00 年代の前半に拡大した結果、多くの人が気になり始め、00 年代の後半に入ってから質問サイトなどで取り上げられるようになったのでしょう。

「違う」の形容詞化は福島県あたりが発生源だとしても、「ちげー」という言い方は東京あるいは首都圏で発生したもので、福島県出身で 50 代の私としては、いまだに違和感があります。一方、若い人たちは違和感がないようで、授業で学生たち（ほとんどが、東北地方の南部または北関東の出身者）に「ちげー」という言い方を使ったりするかと聞いてみたところ、全員が使ったり聞いたりするとのことでした。

「違う」の形容詞化が完成の域に達したとはいえ、いろいろ不思議なところがあります。まず、「ちげー」は二重母音が長音化したものととらえられますが、元となる二重母音は何なのでしょう。「長い」→「なげー」のように「ちがい」→「ちげー」という対応が一番に考えられますが、「ちがい」という形では形容詞終止形として使われることはありません。かといって、「違う」の [au] が長音化して「ちげー」の [e:] となるという音の対応は無理があります。

また、使われ方にも制約が多いように思われます。「これちげー」のように格要素と共起する使われ方も可能なようではありますが、圧倒的に一語文あるいは喚体句的に使われているのではないのでしょうか。多くの場合、「ちげーよ」のように終助詞を伴うという特徴もあります。

「ちがかった」や「ちがくて」「ちげー」が可能なら、名詞形の「ちがさ」はどうでしょうか。web で調べてみると、全く使われていないわけではありませんが、まだ使用が拡大する局面には至っていないように思われます。学生たちに聞いてみると、「ちがさ」は使わないし変だとのことでした。「違う」の名詞形は「違い」であり、「ちがさ」という名詞形はまだそれに取って代わることはできない段階なのでしょう。そうすると、「ちがい」は名詞形であり形容詞終止形ではないということになって、「ちげー」は「ちがう」の [au] が長音化したものなのかという疑問にまた戻ってしまいます。

「ちげー（よ）」は漫画のセリフでもよく使われているとのことでした。サブカルチャーへの興味がきっかけで日本語を学んでいる人たちにとっては、普通の言い方のように思われるかもしれません。そうだとすると、日本人の若者と近い感覚だと言えるでしょう。今回「ちがさ」の用例について調べたら、「日本語の言葉の違さを教えていただけませんか。（Yahoo 知恵袋の質問）」「日本とマレーシアの違さ（ブログ記事のタイトル）」といった非母語話者による用例が見つかりました。「違う」の形容詞化という点では、一歩進んでいると見ることができます。言語の変化は、母語話者だけが駆動しているのではなく、その言語を使用する人全体が関わっていると言えるでしょう。

私のバトンは、専修大学の川上隆志先生にお渡しします。今年の CAJLE 年次大会はカルガリー大学でありましたが、川上先生は客員としてカルガリー大学に滞在していらっしゃいました。2 次会などでご一緒したご縁でお引き受けいただきました。よろしくお願い致します。

執筆者プロフィール 渡辺 文生（わたなべ ふみお）

筑波大学博士課程文芸・言語研究科言語学（応用言語学）単位取得退学。山形大学人文社会科学部教授。日本語学・言語学の授業のほか、留学生対象の日本語科目、「国語」の教職科目を担当。

## 国際交流基金コーナー

### 国際交流基金派遣日本語専門家の活動紹介

カナダ日本語教育振興会の皆様、前回、簡単な自己紹介をさせていただきました国際交流基金の村上です。

前回の記事のとおり最初の海外経験はカナダのワーキングホリデーだったのですが、日本語教育の道に入ってからには主にモンゴルなどの途上国を中心に仕事してきました。そのため、情報不足を補う必要から、同業者のデジタルなネットワークに参加する必要に迫られ、今ではそうしたつながりを作ることがライフワークとなっております。カナダには CAJLE を始めとするネットワークがすでに活発に動いていますが、技術の発展によりリアルタイムでお互いの顔を見ながら会議をしたり、ソーシャルメディアを通じた情報共有なども可能になりつつあります。こうした面で皆様とご協力させていただけたらと思っております。

顔の見えるオンラインネットワーク育成の一つとして、11月14日からオンライン日本語教師研修を始めております。ここでは Zoom という無料のテレビ会議システムを利用します。トロントやバンクーバーはもちろん、遠くユーコン準州からの参加者もいらっしゃいます。こうした情報は JF トロントの公式サイトだけでなく、Facebook グループの「カナダで日本語を教える人たち」でも発信しておりますので、アカウントお持ちの方はお気軽にご参加くださいませ。

村上吉文 国際交流基金派遣日本語上級専門家、アルバータ州教育省日本語教育アドバイザー

電子メール : Yoshifumi.Murakami@gov.ab.ca

オンライン日本語教師研修 : <http://jftor.org/event/workshop171114/2017-11-14/>

Facebook グループ「カナダで日本語を教える人たち」 : <https://www.facebook.com/groups/NihongoCanada/>

### —教材紹介—

#### 『まるごと 日本のことばと文化』中級 2(B1)

国際交流基金 編著



2017年10月1日刊行!

『まるごと 日本のことばと文化』中級2 (B1) は、JF日本語教育スタンダード準拠の成人日本語学習者向けコースブックの中級レベルです。同教材は日本語を使ったコミュニケーションと異文化理解を重視して開発されました。昨年9月の中級1 (B1) に続き、今年10月に中級2 (B1) が刊行されました。

『まるごと』中級は、実際の場面でのコミュニケーションを想定したとき、それができるようになるためには授業で何をすることが必要なのか、という考えから出発した教材です。自国の伝統芸能や歴史について話したり、健康についてアドバイスしたり、最新のニュースについて情報を提供したりなど、やや複雑なコミュニケーションができるようになること、また、インターネットの掲示板や雑誌のコラムなど、さまざまなものを読んで、内容が理解できるようになることを目指します。

まずは是非、以下の内容一覧、サンプルをご覧ください。

『まるごと 日本のことばと文化』中級2 (B1)

- 内容一覧 : [https://www.marugoto.org/assets/docs/about/intermediate2\\_contents.pdf](https://www.marugoto.org/assets/docs/about/intermediate2_contents.pdf)
- サンプル : [https://www.marugoto.org/assets/docs/about/intermediate2\\_sample.pdf](https://www.marugoto.org/assets/docs/about/intermediate2_sample.pdf)
- 教材ダウンロード (要ログイン・無料) : <https://www.marugoto.org/download/>
- 教材ダウンロード 音声ファイル・サポート教材 中級2 (B1) : <https://www.marugoto.org/download/intermediate2/>

## —教材紹介—

### 母語・継承語話者の子ども向け 日本語教科書「おひさま」

山本絵美・米良好恵・上野淳子

「ちょうどいい教材がどこにもない！」

これが、私たちが、マルチリンガルの（特に母語・継承語として日本語を学ぶ）子どものための日本語教科書「おひさま」を作ろうと決意した理由です。

「おひさま」は、子どもの日本語教育について研究している山本と、補習校や日本語教室での実践経験を積んだ米良・上野が共著しました。主な対象年齢は幼稚園から低学年の子ども達です。コミュニケーション重視の内容で、日本語の知識習得だけでなく、子どもたちの興味や関心を広

げ、内面が豊かになるよう、知的好奇心を刺激するトピックを厳選しました。「Can-Do」リストで「できる」が可視化されていること、海外在住の子どもたちの「苦手」がしっかりカバーできること、ゲームや活動も満載なこと、そして「いろいろな国」や「生き物」のトピック（内容一覧表をご参照ください。）などで、多様な内容を日本語で勉強できることなども大きな特長です。また、経験豊富な教師だけでなく、教育経験の少ない教師や親御さんも教えやすいよう、各ページに「おうちの方へ」という教え方の説明も設けました。



「おひさま」の第一課「ぼく・わたし」より  
（※内容は、多少変更になる場合もございます。）

1章	ぼく・わたし	(1) ぼく・わたし (2) かぞく
2章	いろいろなくに	(3) せかいのくに (4) にほん
3章	たべもの	(5) ごはん・おやつ (6) やさい・くだもの (7) おこのみやき
4章	おいおいごと	(8) たんじょうび (9) おしょうがつ (10) いろいろなびょうじ
5章	いきもの	(11) いきもの (12) きょうりゅう (13) はな、き
6章	せいかつ	(14) せいかつ (15) ふく (16) てんき
7章	ことば	(17) ことばあそび (18) むかしばなし (19) せかいのおはなし
8章	すきなこと・もの	(20) スポーツ (21) おんがく
9章	おでかけ	(22) おでかけ (23) まち
10章	みらい	(24) ちきゅう (25) うちゅう (26) みらいのぼく・わたし

「おひさま」の内容一覧

この「おひさま」プロジェクトは2013年に開始し、2015年には国際交流基金の助成金をいただきました。その後、世界各地の教育現場の皆様から頂戴した、試用版のフィードバックを反映させ、さらに楽しく使いやすい教科書に仕上がりました。近日中にくろしお出版から出版され、世界中で販売予定です。皆さま、どうぞよろしくお願い致します。

お問い合わせ : [ohisama.project.nl@gmail.com](mailto:ohisama.project.nl@gmail.com)

Facebook ページ : <https://www.facebook.com/ohisama-1731025060461592/>

## — CAJLE よりお知らせ —

### 年次総会議事録・会計報告 書記

2017 年度の CAJLE 年次大会はアルバータ州カルガリー大学にて 8 月 16・17 日の 2 日間に渡り開催され、年次総会は 16 日に行われました。年次総会議事録と会計報告は CAJLE ウェブサイト会員専用ページ Member's Area にてご覧いただけます。会員専用ページへはウェブサイト右側の「ログイン Sign In」からアクセスください。http://www.cajle.info/

### 地域研修会支援金について REGIONAL WORKSHOP/MEETING SUPPORT FUND

CAJLE は、オンタリオ部会・アトランティック部会に代わり、今後、特に地域を限定せずにカナダ全土における活発な活動を目指す「CAJLE 地域研修会支援金」を設けることにいたしました。会員による地域の日本語教育活性化につながる活動を支援するための助成金です。地域のニーズに応じた教師研修や教師間のネットワーク作り促進のための事業を会員自ら企画し実施することを支援します。企画の実施まで、近隣の CAJLE 理事が連絡役・相談役を務めます。詳細は[こちら](#)をご覧ください。皆様からのお申し込みをお待ちしております。(広報担当)

CAJLE has replaced the Atlantic and Ontario Chapters to create the “CAJLE Regional Workshop/Meeting Support Fund”. This is to allow broad-ranged activities that will cover all of Canada and not be limited to specific regions. This fund was created to assist in the regional growth of the Japanese language community through its members. It will enable members to plan and create their own instructor training, as well as instructor networks to better suit regional needs. Nearby CAJLE directors will serve liaisons and consultants. Please see the [website](#) for more information. We wholeheartedly look forward to receiving your application. (Public Relations)

### 日本語教育グローバル・ネットワークからのお知らせ

CAJLE は日本語教育グローバル・ネットワーク(略称 GN)の一員です。GN では隔年で日本語教育国際研究大会(略称 ICJLE)を開催していますが、2018 年の学会はイタリア・ヴェネチアで開かれます。どうぞご参加ください。

日時: 2018 年 8 月 3 日(金)～ 2018 年 8 月 4 日(土)  
場所(会場): イタリア、ヴェネツィア 「カ・フォスカリ」大学

お申し込みはこちらから

- Registration (日本語) <https://www.eaje.eu/ja/symposium/40>
- Registration (English) <https://www.eaje.eu/en/symposium/40>





## CAJLE2017 年度上半期活動報告

書記 青木恵子、脊尾泰子、白川理恵

### 理事会担当報告及び承認事項

2017 年	
6 月 1 日	ニュースレター54 号発行
6 月 2 日	CASLT Dinner and Socializing with CALST Board Members に理事の善積氏が CAJLE 代表として出席
6 月 13 日	2017 年度第 1 回オンライン理事会開催
7 月 18 日	2017 年度第 2 回臨時オンライン理事会開催 2016 年度決算報告の承認、2017 年度予算案の承認、及び前年度総会議事録追記版の承認。追記版承認を受け、会員サイトの 2016 年度総会議事録差し替え。
7 月 22 日	日本語学習を継続させる(Continuing Learning Japanese) 第 25 回「日本語教育とジェンダー」 於: 国際交流基金トロント日本文化センター／共催: CAJLE、国際交流基金トロント
8 月 10 日	ジャーナル CAJLE18 号発行 オンラインにて公開
8 月 15 日	2017 年度第 3 回理事会開催
8 月 16～17 日	CAJLE2017 年次大会開催「広がる日本語－日本語教育と社会とのつながり」 開催地: アルバータ州カルガリー大学 後援: Consulate-General of Japan in Calgary; The Japan Foundation; Faculty of Arts, Language Research Centre, School of Languages, Literatures and Cultures, University of Calgary; Prince Takamado Japan Centre for Teaching and Researches, University of Alberta; The Canadian Association of Second Language Teachers; Alberta Japanese Business Association; HIS Canada Inc.; Nippon Express Canada; Top Career/Fourth Valley Concierge Corporation. 基調講演: 久保田竜子先生(ブリティッシュコロンビア大学)「規範主義を超えた日本語教育の構築へ: 多様性とそのポリティクスを考える」、教師研修 I: Janice Aubry 先生(カナダ第二言語教師会) Strategies for Japanese Teachers to Support Language Variations Within Their Classrooms、教師研修 II: 田中香織先生(国際交流基金トロント日本文化センター)「媒介語の使用を対照の楽しみに繋げる」、教師研修 III: 久保田竜子先生(ブリティッシュコロンビア大学)「多様性を織りこむ日本語指導: 実践と課題」
8 月 16 日	年次総会開催 ・2017 年度公認会計士税理士は Chaplin & Co. 会計事務所に引き続き依頼することが承認された。 ・来年の年次大会の日程と開催地が発表された。2018 年 8 月 21, 22 日 開催地: ヒューロン大学(オンタリオ州ロンドン市)
8 月 24 日	日本語学習フェア Japanese Study Fair にブース設置。理事の伊東氏が CAJLE 代表として参加。於: 国際交流基金トロント日本文化センター
9 月 18 日	CAJLE2017 の Proceedings をウェブに掲載
9 月 19 日	2017 年度第 4 回臨時オンライン理事会開催
9 月 29 日	2017 Annual General Meeting (AGM) and 15 <sup>th</sup> Networking Day, September 29 <sup>th</sup> in Gatineau,

	Québec 理事の赤井氏が会長代行として出席
10月10日	第5回オンライン理事会開催
10月14日	日本語学習を継続させる(Continuing Learning Japanese)第26回「ロンドン市における日本語講座の紹介」於:国際交流基金トロント日本文化センター／共催:CAJLE、国際交流基金トロント

## 編集後記

◆日本語教師としての自分の強みは何だろう。学生に、学校に、自分は何ができるのだろう。と、自分自身に問いかけながら、今回の特集記事に取り組みました。学生はもちろん、教師自身も個性が活かされる授業ができたと思います。(紅@倫敦) ◆このニュースレターを編集したCAJLEの広報担当理事は、理事であると同時に現役の日本語教師でもあります。それぞれの勤務校で学期末のテストやプロジェクトなど次々うちよせる荒波にのりながら、このニュースレターの編集作業に楽しみ、苦しみ、こだわりながらとりくんでまいりました。私は今回で編集部を残念ながら離れることになりましたが、これからは読者として一字一句に浮かぶ編集作業の喜びと苦勞を想像し、応援していきたいと思います。ありがとうございました。(Au79@晩香波) ◆夏の年次大会で皆様とお会いしてから早4か月。季節はずっかり変わり、カナダは冬本番です。長く厳しい季節ですが、首を長くして春(次のニュースレターが発行される時期でもありますね)を待ちたいと思います。皆様も風邪などひかれませんように。(123@薩斯卡通)

CAJLE ニュースレター編集部ではコメントや日本語教育に関するご意見など皆様からの投稿を歓迎します。お気軽に編集部 [CAJLE.PR@gmail.com](mailto:CAJLE.PR@gmail.com) までメールをお寄せ下さい。  
CAJLE newsletter editorial board welcomes comments and opinions that address issues related to Japanese language education. Please email us at [CAJLE.PR@gmail.com](mailto:CAJLE.PR@gmail.com)

カナダ日本語教育振興会  
Canadian Association for Japanese Language Education  
P. O. Box 75133  
20 Bloor St. East Toronto, Ontario M4W 3T3 Canada  
Web: <http://www.cajle.info/>

## 会員規定 - Membership

カナダ日本語教育振興会は、カナダにおける日本語教育の発展と向上を目指す非営利組織です。日本語教育に関心のある方ならどなたでも会員として登録することができます。

### 会員特典

- ・カナダの日本語教育情報満載のニュースレター(年2回発行)
- ・日本語教育関係の各種ご案内
- ・年次大会、勉強会、その他の催しの参加費割引
- ・CAJLE 年次大会での研究発表資格
- ・The Canadian Association of Second Language Teachers (CASLT) 会員登録の割引適用: 年会費 \$15 (通常\$45)

### 会費年度

毎年1月1日から12月31日まで。

### 会員の種類

一般会員(1年)	\$ 45 CAD
一般会員(3年)	\$ 120 CAD
学生会員(1年)	\$ 30 CAD
組織会員(1年、4名まで*)	\$ 120 CAD

\*全員が同じ組織に所属していること。4名を超える場合、以降1名追加ごとに\$30お支払いいただきます。

CAJLEホームページのメンバーシップページ(About us)より、オンラインにてお申し込みいただけます。

小切手もしくは銀行振込によるお支払いをご希望される方は、会員申込書をご記入の上、メールまたは郵送でお送りください。申込書、お支払い方法についてはホームページをご覧ください。

<http://www.jp.cajle.info/>

申込先:

Canadian Association for Japanese Language Education  
(CAJLE)  
P.O. Box 75133, 20 Bloor St. East  
Toronto, Ontario, M4W 3T3, CANADA

※連絡先の変更

住所およびメールアドレス等の変更があった場合にはこちらまでお知らせください。[cajle.kaikei@gmail.com](mailto:cajle.kaikei@gmail.com)

CAJLE is a non-profit organization which actively promotes Japanese language education in Canada. We welcome everyone who is interested in Japanese language education.

### CAJLE membership entitles you to:

CAJLE membership entitles you to:

- Receive the CAJLE Newsletter full of information about Japanese Language Education in Canada (two issues annually)
- Receive various announcements related to Japanese education via email.
- Attend the CAJLE annual conference, workshops and other related events at a reduced rate.
- Present research at the CAJLE annual conference
- Special rate for The Canadian Association of Second Language Teachers (CASLT) membership. (Affiliate Individual Membership is \$15, instead of Regular Individual Membership \$45)

### Term of Membership:

The term of membership runs from January 1 of each year through December 31.

### Membership Categories:

Regular Membership (1 year)	\$ 45 CAD
Regular Membership (3 years)	\$ 120 CAD
Student Membership (1 year)	\$ 30 CAD
Institutional Membership (1 year, Up to 4 members*)	\$ 120 CAD

\*All members must belong to the same institution. If there are more than four members desiring membership, each can be added by paying \$30 for each additional person.

Please visit our website and open "Membership" page through "About us". Please fill out the online form and complete the payment procedure through paypal. For those who wish to pay by personal check or bank transfer, please fill out the application form (available on [www.cajle.info](http://www.cajle.info)) and mail or email it with the appropriate membership fee.

Mail to:

Canadian Association for Japanese Language Education  
(CAJLE)  
P.O. Box 75133, 20 Bloor St. East  
Toronto, Ontario, M4W 3T3, CANADA

Please notify us at the following email address if your contact information changes: [cajle.kaikei@gmail.com](mailto:cajle.kaikei@gmail.com)

## CAJLE 2018 年次大会研究発表募集 発表企画

Call For Proposals for CAJLE 2018 Annual Conference  
(You will find the English and French versions below.)  
(Les versions anglaise et française sont disponibles ci-dessous.)

CAJLE (Canadian Association for Japanese Language Education: カナダ日本語教育振興会) は一年に一回、講演、教師研修、研究論文発表、総会、懇親会などを組み入れた大会を開催しています。日本語教育、日本語学に関する情報や意見を交換し、参加者同士が親睦を深めながら学ぶ貴重な場となっています。次回 2018 年の年次大会は、下記の通り、オンタリオ州ロンドンのヒューロン大学にて開催されます。

大会テーマ：「多様性と評価-多様化する社会での評価の意義-」

日程：2018 年 8 月 21 日 (火)、22 日 (水)

開催地：オンタリオ州ロンドン ヒューロン大学 (<http://www.huronuc.on.ca>)

基調講演・教師研修 I：真嶋潤子先生 (大阪大学)

教師研修 II：Maureen Smith 先生 (Canadian Association of Second Language Teachers, The Ontario College of Teachers)

教師研修 III：村上吉文先生 (国際交流基金・アルバータ州教育省)

研究発表は、日本語教育、日本語学、継承語教育などの理論的考察、実践報告、また教材開発などを扱ったもの、特に大会テーマに関わる発表を歓迎します。発表は、口頭発表 (発表 20 分、質疑応答 10 分)、ポスター発表 (90 分の発表時間。その後も展示時間あり) に加え、今回はラウンドテーブル・ディスカッションも募集いたします。ラウンドテーブル・ディスカッションの話題提供者は 2~5 人、時間は 60 分です。話題提供者の問題提起が 15 分、参加者全員による意見交換が 40 分、話題提供者によるセッションの振り返りが 5 分とします (ラウンドテーブルガイドラインは[こちら](#))。

発表言語は口頭発表・ポスター発表・ラウンドテーブルのいずれも日本語、英語、あるいはフランス語とし、アブストラクトの言語を発表言語とします。詳細は CAJLE Homepage ([こちら](#)) をご覧ください。

### 応募資格

発表者は当会会員に限ります。共同発表者も含め応募時に入会手続きがお済みでない場合は、選考の対象となりませんので、ご注意ください。 入会案内は[こちら](#)をご覧ください。なお、共同発表を含めて、応募は一人一題までとします。



### アブストラクト賞（大学院生のみ）

本年度も昨年に引き続き、大学院生のアブストラクトを対象に最優秀賞（300ドル）、優秀賞（200ドル）を選出します。受賞者は大会参加費も免除します。なお、受賞者には採択結果とともにお知らせします。賞金の授与は大会当日に会場で行います。また、大会への2日間の参加及び発表が必須となります。大学院生によるアブストラクトは自動的に審査対象となりますので、別途申し込みは必要ありません。ただし、大学院生以外との共同発表は選出の対象外とします。また、受賞者が発表を辞退した場合は受賞も辞退したものとみなします。

### 応募方法（口頭発表・ポスター発表・ラウンドテーブルとも）

以下の項目を[会員ページのオンライン応募受付サイト](#)にご記入下さい。会員サインインページは[こちら](#)です。なお、応募時の要旨は、大会HPと大会当日の配布資料に掲載されます。

- 1) 発表題目：日本語と英語、または日本語と仏語。
- 2) 発表要旨：**発表言語で作成**。日本語要旨は700字以内、英語・仏語要旨は350語以内
- 3) 発表の分野（日本語教育、言語学、継承語教育、その他）
- 4) 発表者氏名（日本語とローマ字で筆頭・共同発表者全員のもの）\*ラウンドテーブルは2名以上で申し込む。
- 5) 所属（日本語と英語、または日本語と仏語で筆頭・共同発表者全員のもの）。大学院生はその旨を明記のこと。
- 6) 希望する発表形態（口頭発表希望・ポスター発表希望・ラウンドテーブル希望のいずれか）  
\*選考の結果、口頭発表／ポスター発表についてはご希望に添えない場合もあります。
- 7) メールアドレス（発表者全員のもの）

締切：2018年4月9日（月）

採否通知：2018年5月7日（月）

大会後 Proceedings を CAJLE ホームページで公開します。前大会までの proceedings は[こちら](#)からご覧になれます。

CAJLE 2018 年次大会 Proceedings のガイドライン（詳細は近日中に CAJLE Homepage に掲載）

長さ：枚数4枚～10枚

提出締め切り：2018年9月3日（月）必着

なお、大会発表からジャーナル投稿にふさわしい研究を選抜し [Journal CAJLE](#) vol. 20（2019年夏発行予定、査読審査付）への投稿案内をいたします。

## CALL FOR PROPOSALS:

### CAJLE (Canadian Association for Japanese Language Education) 2018 Annual Conference

CAJLE (Canadian Association for Japanese Language Education) holds an annual conference which includes lectures and workshops by guest speakers, as well as research presentations and a general meeting. The conference provides a great opportunity for participants to exchange information and opinions on Japanese language education and Japanese linguistics. The CAJLE 2018 Annual Conference will take place in London, Ontario.

**Theme: “Diversity and assessment: Exploring the significance of assessment in a diversifying society”**

**Conference Date: August 21 (Tuesday) – August 22 (Wednesday), 2018**

**Conference Venue: Huron University College in London, Ontario (<http://www.huronuc.on.ca>)**

**Keynote Address/Teacher Workshop I: Professor Junko Majima (Osaka University)**

**Teacher Workshop II: Ms. Maureen Smith (Canadian Association of Second Language Teachers)**

**Teacher Workshop III: Mr. Yoshifumi Murakami, Japanese-Language Education Advisor, Alberta Education (sponsored by the Japan Foundation)**

Abstract Submission Deadline: **Monday, April 9, 2018**

Notification of Acceptance: **Monday, May 7, 2018**

We invite submission of abstracts for **paper presentations and poster presentations** on topics including, but not limited to, Japanese linguistics, Japanese language pedagogy, Japanese as a heritage language, as well as innovative teaching techniques. Submissions related to the conference theme are especially welcome. The allocated time for each presentation is 30 minutes (20 minutes for presentation and 10 minutes for discussion), and posters will be presented in a 90-minute poster session.

For CAJLE 2018 Annual Conference, we also invite submissions of abstracts for **roundtable discussion**, in addition to abstracts for paper and poster presentations. We encourage proposals relevant to the conference theme, “Diversity and assessment: Exploring the significance of assessment in a diversifying society”. A group of 2-5 presenters can submit a proposal for the roundtable. One roundtable discussion is given 60 minutes: 15 minute presentation by presenters followed by 40 minutes of group discussion and 5 minutes of summary and feedback by the presenters/facilitators ([Instructions for the submission](#)).

Presentations may be given in either Japanese, English or French with the abstract in the language of the presentation.

Individuals may submit only one proposal as presenters or co-presenters. **Presenters, including co-presenters, must be members of CAJLE. Non-members will be required to submit a membership application prior to submitting a proposal.** Membership information is [here](#).

#### **Graduate Student Abstract Award**

This year again, we are pleased to announce that we are instituting the Abstract Awards for graduate students. This award rewards \$300 for the best abstract submitted by a graduate student for a paper or poster presentation at the Annual Conference, and \$200 for the second place. In addition to the awards, the conference registration fee will

be exempted for both recipients. Every student who submits an abstract for the Annual Conference is automatically considered for this award; no nominations are required. The recipients of the award will be notified at the time they are sent their abstract acceptance notification. The recipients who accept this award must attend the entire conference (two days). If the awardees withdraw from presenting at the conference, this will also decline their acceptance of the rewards.

Please submit your proposal via **the Online Proposal Submission form** in the CAJLE member-only website. To access to the member-only site, please sign in from [here](#).

- 1) Paper title (in both Japanese and English or in both Japanese and French)
- 2) Abstract: 700 letters in Japanese or 350 words in English/French
- 3) Area of your study/research (Japanese pedagogy, Linguistics, Heritage Language Education, Others)
- 4) Name(s) of the presenter(s) (in both Japanese and English, or in both Japanese and French; list all co-presenters),
- 5) Affiliation (in both Japanese and English, or in both Japanese and French; list each co-presenter's information),
- 6) Preference for presentation type: please indicate either "oral presentation preferred," "poster presentation preferred," or "round table". We will accommodate preferences as space allows.
- 7) E-mail address (of all presenters)

**We will publish the conference proceedings online** ([previous issues of the proceedings](#)).

Guidelines for CAJLE Conference Proceedings

The length of manuscript: 4 ~ 10 pages

Submission deadline: Monday, September 3<sup>rd</sup>, 2018

Also, selected presentations at the conference will be invited after the conference for submission for [Journal CAJLE](#), Volume 20 (to be published in summer of 2019). These submissions will undergo a separate review process set by the standards of the journal.

**Appel de propositions:  
Conférence annuelle CAJLE (Canadian Association for Japanese Language Education) 2018**

La CAJLE organise une conférence annuelle qui inclut des conférences et des ateliers donnés par des conférenciers invités, ainsi que des présentations de recherches et une assemblée générale. La conférence représente une belle occasion pour les participants d'échanger de l'information et des opinions à propos de l'enseignement de la langue japonaise et de la linguistique japonaise. La conférence annuelle CAJLE 2018 aura lieu à London, Ontario.

Nous vous invitons à soumettre un résumé pour la présentation d'une communication ou d'une affiche sur des sujets qui incluent, mais sans s'y limiter, la linguistique japonaise, la pédagogie de la langue japonaise, le japonais comme langue d'héritage, ainsi que des techniques novatrices en enseignement. Nous encourageons particulièrement les soumissions en lien avec le thème de la conférence. Le temps alloué pour chaque communication est de 30 minutes (20 minutes pour la présentation et 10 minutes pour les questions et la discussion), alors que les affiches seront présentées lors d'une séance d'une durée de 90 minutes.

Dans le cadre de la conférence annuelle CAJLE édition 2018, nous invitons les participants à soumettre un résumé de leur demande tant que pour la discussion en table ronde que pour des demandes de présentations. Nous encourageons des soumissions de demandes liées au thème de la conférence : « Diversité et évaluation : L'importance du processus d'évaluation dans une société diversifiée ». Un groupe de deux à cinq personnes peut soumettre une demande pour la séance de discussion. Un tour de table a une durée de 60 minutes. Les présentateurs ont 15 minutes de présentation, suivi de 40 minutes de discussion en groupe et 5 minutes de récapitulation et de commentaires de la part des présentateurs ([Les directives pour la soumission de projet](#)).

Les présentations peuvent se faire en japonais, anglais ou français. Les résumés doivent être rédigés dans la langue prévue pour la présentation.

**Thème: Diversité et évaluation : l'importance d'un processus d'évaluation au sein d'une société diversifiée**

**Dates: Mardi le 21 août et mercredi le 22 août, 2018**

**Lieu: Huron University College à London, Ontario (<http://www.huronuc.on.ca>)**

**Discours d'honneur/atelier pour les enseignants I: la professeure Junko Majima (Université Osaka)**

**Atelier pour les enseignants II: Mme. Maureen Smith (Association canadienne des professeurs de langues seconds)**

**Atelier pour les enseignants III: M. Yoshifumi Murakami (le Fondation du Japon, Alberta Education)**

Date limite de dépôt des résumés: **lundi, le 9 avril 2018**

Avis d'acceptation: **lundi, le 7 mai 2018**

Une personne ne peut soumettre qu'une seule proposition en tant que présentateur ou coprésentateur. **Les présentateurs doivent absolument être membres de la CAJLE. Les non-membres devront avoir soumis une demande d'adhésion au moment de soumettre leur proposition.** L'information sur l'adhésion se trouve [ici](#).

**Prix de Résumé Académique pour les Étudiants de Cycle Supérieur**

Cette année, nous sommes heureux d'annoncer que nous instituons le Prix de Résumé Académique pour les étudiants de



cycle supérieur. Ce prix de \$300 récompense le meilleur résumé soumis par un étudiant de cycle supérieur pour un article académique ou une présentation à la Conférence Annuelle. La deuxième place recevra \$200. En plus de ces récompenses, les deux lauréats seront exemptés des frais d'inscription à la conférence. Chaque étudiant qui soumet un résumé pour la Conférence Annuelle est automatiquement considéré pour le prix ; aucune nomination n'est requise. Les lauréats du prix seront informés du décernement quand ils recevront la notification de l'acceptation de leur résumé. Les lauréats qui acceptent cette récompense doivent assister à l'intégralité de la conférence (deux jours). Si le lauréat annule sa présentation à la conférence, cela annulera aussi son acceptation du prix.

Soumettre le formulaire de soumission de la proposition **en ligne sur le site exclusif aux membres du CAJLE**. Pour accéder au site exclusif, veuillez cliquez [ici](#).

- 1) Titre de la communication (en japonais et en anglais ou en japonais et en français)
- 2) Résumé: 700 lettres en japonais ou 350 mots en anglais ou français
- 3) Domaine d'études recherches (Pédagogie Japonaise, Langues, Enseignement des Langues Patrimoniales et autres)
- 4) Le(s) nom(s) du (des) présentateur(s) (en japonais et en anglais ou en japonais et en français; énumérez tous les coprésentateurs).
- 5) Affiliation (en japonais et en anglais ou en japonais et en français; énumérez l'information pour tous les coprésentateurs).
- 6) Type de présentation: choisissez soit « présentation d'une communication », « présentation d'une affiche », soit « discussion en table ronde ». \*Nous ne pouvons vous garantir que vous présenterez selon le choix que vous nous aurez soumis.
- 7) L'adresse courriel (énumérez l'information pour tous les coprésentateurs).

**Nous publierons les actes des conférences sur notre site web.** (Cliquez [ici](#) pour lire les publications précédentes.)

Renseignements concernant la Revue CAJLE

Longueur du manuscrit: 4 à 10 pages

Date limite des soumissions: **lundi, le 3 septembre 2018**

Après la conférence, les participants sélectionnés seront invités à soumettre leurs présentations afin de les publier sous la forme d'un article dans le volume 20 de la [Revue CAJLE](#) (été 2019). Ces soumissions devront passer par un autre processus d'examen suivant les standards de la Revue.